

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部
令和2年2月発行

今年度最後の自立活動だよりは、今年度校内で実施した研修について紹介します。



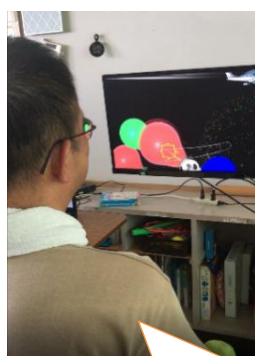
本校は教員の専門性の向上を目指し、本校の教員対象に自立活動に関する研修を実施しています。

今年度は、『視線入力について』『ウレタンフォームを削ってみよう』『摂食指導研修』『音楽療法とリトミック』の研修を行いました。また、本校は平成22年度に和歌山県特別支援学校教育専門性向上事業「特別支援学校研究指定」を受け、自立活動の研究を行って以来、自立活動の取組に力を入れています。そこで、昨年度に引き続き各学部（愛徳分教室含む）をいくつかのグループに分け、各グループより1事例の自立活動の授業について年間通して授業改善を行いました。その中から、各学部1事例ずつ、2ブロック全体から1事例、愛徳分教室から1事例計5事例の授業を研究授業の対象として和歌山大学教育学部武田鉄郎教授をお招きし、それらの授業を見ていただき協議会を行いました。その後、全体研修として武田先生に『自立活動の基礎』についてご講演をいただきました。

以下、各研修の様子を紹介します。

【視線入力について】講師：東昌美

本校には視線入力装置があり、視線入力は本校の抽出指導や相談でも取り入れて実践されています。視線入力装置は瞳孔の動きを読み取り、そのデータをパソコン上の画面上に反映させることができます。注視や追視の力を高めたり、因果関係を理解したりすることを中心に取り組んでいます。また、その子どもの見え方も捉えることができます。今回の研修では、実際に先生たちが視線を使ってゲームをしたり、文字を打ったり、体験を通して視線入力がどのようなものを学習しました。体験された先生方からは「視線の動向がわかり、児童に物を提示する位置等を考えなければと思った」「子どもが将来コミュニケーションツールとして活用できればいいなと思った」等の感想が寄せられました。



動く風船をじっと見ると風船が割れるゲームにトライ中！

【摂食指導研修】講師：愛徳医療福祉センター ST 鍵岡仁美氏 OT 坂井田綾乃氏

本研修は毎年愛徳医療福祉センターより作業療法士・言語聴覚士の先生を講師に迎え実施しています。今年度は、2部構成で前半は摂食・嚥下の発達について講義していただき、後半は実際に給食を食べている児童生徒の事例を見ていただきました。

前半の講義ではスプーンからお箸を使えるまでの手の発達、食形態について学習し、食器も紹介していただきました。次に食事介助の実技にうつりました。食事を介助する教師役と介助される児童生徒役になって食事の介助法、スプーンの運び方や運ぶ位置、姿勢等食事のポイントについて講習が行われました。後半は事例を見ていただいた後、専門的な立場からアドバイスをいただきました。担任教師からは「今後を見据えた介助法や自助食器の使用法を教えてください、今後の指導に活かしていきたい」と感想が寄せられました。



スプーンの位置はとっても大事

【ウレタンフォームを削ってみよう】

講師：スマイル工房代表取締役 岡本崇氏 辻久幸氏

昨年度はおむつフッターさんを招き『子どもに合ったおむつの選び方・使い方を考えてみよう』というテーマでご講演と実技研修を行いました。今年度は車いす・補装具製作販売業者であるスマイル工房さんに来ていただき、ウレタンフォームについての説明と実際に削ってみる実技研修を行いました。参加された先生方からは「児童生徒の座位保持装置を直すことは難しいが、普段の生活の中で必要なものやあれば良いと思うものを作ることは、今日の研修を受けてできるかなと思った」「なかなか触れる機会のない専門的な研修で良かった。ウレタンカットを体験したり説明を聞いたりする中で、業者さんの思いや苦勞、技術等多方面から気づかされる場所が有り、座位保持装置の扱い方やその児童生徒の接し方に新たな視点が加わった」等の感想が寄せられました。



【音楽療法とリトミック】講師：川崎亜希子

昨年度は音楽療法とリトミックって何？という理論について研修しましたが、今回は『学習に活用できる明日から使えるネタ』というタイトルで、『音の高低、強弱、拍子、調性、アーティキュレーション（音の表情）、リズム・・・』の音楽を構成する要素を活用し、ひらがな文字の習得、形の弁別、物の名前を覚える、身体の部位や色を覚える、日常会話のやりとり、発声を促すための音楽の使い方伴奏の仕方等専門的なことから、だれでも簡単にできるアレンジの仕方まで学習しました。参加された先生方からは「ピアノができなくても、それに代わることで子ども達の指導に活かしたい」等の感想が寄せられました。



【全体研修】・自立活動の授業づくり研究における武田先生との協議会・講演会



武田先生の講演の様子



4事例の授業を見ていただいた後の協議会では、各授業者に対して、武田先生から講評とアドバイスをいただきました。武田先生からは「児童に自己選択、決定させることは良かった」「この教室が一番楽しいという空間にしよう、子どもの気持ちを大切に」等のお言葉をいただきました。そして講演では、自立活動の目標設定の仕方、評価について等の自立活動の基礎的なことから愛着障害のお話もしていただきました。特に愛着障害の子どもへの接し方についてはもう少しお話が聞きたかったとの声が多く寄せられました。他に「もう一度基本に立ち戻って見直してみよう」「研修で培ったことを子どもへ還元していきたい」との感想が寄せられ、特に武田先生の「自立活動はオーダーメイドの授業、見栄えの悪い授業でもいい」「できるとわかるは違う」の言葉は印象に残り、私たち自身の取組を振り返る機会となりました。

・授業検討会の報告会

武田先生に見ていただく授業以外の授業検討会の報告会では、各グループの発表者が、グループ内でどのように話し合いがもたれ授業改善を行ったか、対象の児童生徒はどのように変容していったか、授業改善を通して先生達で確認できたこと等についてプレゼンテーションを行いました。研修後「多くの目で授業を見てもらうことは自身の勉強になる」「常にPDCAサイクルに基づいて取り組もうと思った」等の感想が寄せられました。



授業検討会での発表の様子

最後に、自立活動は子どもが日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するための学習です。子どもたち一人ひとりの将来像を考えながら、目標や指導内容を計画し、取り組んでいくことが大切であることを考えていきたいと思えます。